

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	サービスセンターいとまち		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 26日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者同伴の個別療育をおこなっており、 家庭と連携しながら療育ができる環境である。	アセスメントを丁寧におこなうことで、 個々の発達に合わせた療育の提供	継続していく。
2	発達支援センター等の他機関と連携し、つ ながりのある支援をしている。	何か困ったことなどあれば相談できる関係 性を作っている。	継続していく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者の希望日時に添えないことがある。	併設された放課後等デイサービスと合わせ た定員となるため、日時の調整が難しい。	定員を増やすなど考えていかなければなら ないと思うが、職員の配置等のこともあ るので慎重に検討していかなければなら ない。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名 サービスセンターいとまち

公表日 令和 8 年 3 月 4 日

利用児童数 13人

回収数 5人

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	60%			40%	療育部屋が2階にあるが、必要であれば1階の部屋（面談室）を開放していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	80%			20%	支援プログラムは、インターネット上に公表されていることを周知していきたい。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	60%	20%			「どちらともいえない」とのご意見があるので、固定化されないようにプログラムを考えていきたい。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	80%			20%	個別療育を主としているので、交流する機会がないと考えられるが、要望があった際にはどのように対応ができるか考えていきたい。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	80%			20%	丁寧な説明を心がけていきたい。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	60%			40%	研修会などがあれば情報提供をおこなってきたい。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	100%				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	80%			20%	6ヶ月に1回、面談をおこなっている。また、個別療育の中でも相談の時間等を設けている。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%				
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	40%			60%	保護者会等の開催はできていない。今後の課題である。	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	80%			20%	相談があった際には、迅速かつ適切に対応できるように心がけている。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	60%			40%	情報発信はインスタでこなっている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	80%			20%	個人情報の取扱いには十分に気をつけている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	80%			20%	契約時に、マニュアルがあることを伝えている。年に1回以上、マニュアルにしたがって訓練を行っている。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	40%			60%	避難訓練は年に2回以上している。今年度は、訓練のお知らせをしたが、参加者はいなかった。今後も周知をしていきたい。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	60%			40%	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	40%	20%		40%	契約時に説明はしている。保護者望はでの療育であるので、万が一、事故等が発生してもすぐに対応できる状況である。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100%				
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%				

公表	事業所における自己評価結果（児童発達支援）
----	-----------------------

事業所名	サービスセンターいとまち		公表日 令和8年 3月 4日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指導訓練室が3室あり、指導員が1名が一つの部屋を使えるようになっている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		対応できる職員配置数になっている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	訓練室は、分かりやすい空間作りを心がけている。	主に使用する指導訓練室が2階にあり、エレベーターもないため、バリアフリー化は今後の課題であるが、1階の面談室をしようできるように工夫していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃、整理整頓がなされており清潔感はある。 活動に合わせて、部屋のやりくりをしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の部屋を3部屋用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		目標の設定と振り返りは、児発管を中心におこなっている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		1年に1回、意向等を把握する機会を設け業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		1年に1回、意向等を把握する機会を設け業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		理事会において、半年に1回評価をいただいている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修に参加する機会を設けている。また、法人内での研修も年に1回以上設けている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		作成をし、法人内のホームページに記載をしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		年に1回はアセスメントを行い、保護者からニーズや課題を聞き取り、職員で検討会を実施している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当職員と共通理解のもと計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		必ず計画の原案会議をし、共通理解を図っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		共通のアセスメントを用いて確認をしている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿って支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別で立案し、ミーティング等で情報共有をしている。	

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		同じ課題でも伝え方や指示の仕方など、様子を見ながら対応している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別支援が中心であり、集団活動は組み込まれていない。	当センターでは、個別活動を主で行っている。今後要望があれば対応の仕方を考えていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		1対1の担当に任せられた個別の支援なので分擔して行うことはないが、課題等にかんしては、意見を頂くようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		勤務時間帯が異なるため毎日の振り返りはできないが、ミーティングで気付いた点等を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録は支援が終わる毎に記録を取っている。ミーティング等で検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当となる者が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係者、関係機関との連携は随時行われており、電話だけでなく施設訪問もしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて情報共有や総合理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		学齢期の人に対して、保護者が学校側から申し入れを受けて入学する学校の担当と打合せを行っており、情報の共有を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		必要時にセンターと連携を図り、助言等の機会を設けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		利用者は全員、保育所等を利用しており、障害のない子と活動する機会はある。保護者からの情報を共有している。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回、個別療育の結果について話し合い、共通理解を図っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			日頃から保護者に情報共有を行っているが、家族支援プログラムや研修の機会の情報提供を行っていないのが課題である。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		丁寧な説明を心がけており、質問等があれば迅速に対応している。		

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画書の見直しの時期に、意向の確認をとっている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画書を提示しながら丁寧な説明を心がけている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		毎回、個別療育終了後、家族等からの子育ての悩みについて相談を受け、障害のある子の特性を踏まえ対応について話し合っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会の開催には至っていない。きょうだい同士で交流する機会はないが、きょうだい間の相談があった際には対応している。	今後、必要であるかは精査していきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談、申し入れには積極的に個別で対応し、そのことについて児発管や所長と迅速に話し合っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			活動の様子は併設されている放課後等デイサービスの内容が主であり、今後のどのようにして発信していくか課題である。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に、個人情報の同意書について説明し同意を得ている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用者の特性に応じて意思疎通の方法を考えている。保護者とは電話連絡や直接確認を取っている。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			放課後等デイサービスは実施しているが、児童発達支援ではやったことがない。個別療育を主で行っているため、必要かどうか精査していきたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルは策定されており、職員に周知している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に訓練を実施し、必要な訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		保護者と一緒に来所するので何かあればその場で保護者に確認できる。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事提供する場面はないので対応する機会はないが、体制作りはできている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		計画を作成し、訓練を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		事故等がおこった場合の連絡方法について保護者に確認を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを職員全員で検討している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎月の全体ミーティングで話し合っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束はやむを得ず行う3要素を守り、保護者への説明は支援計画に書かれた内容を基に毎回説明を行っている。	